

会議概要

件 名	令和8年度第2回 鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会	作成課	観光交流局 世界遺産・ジオ・ツーリズム 推進課
日 時	令和8年10月9日(金) 10:00～11:30		
場 所	市役所みなと大通り別館4階401会議室		
出席者	委員 9名		
市出席者	委 員:堀之内観光交流局長 事務局:世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課職員		
会 次 第	1 開会 2 協議 (1) 第4期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画(素案)について 3 その他 4 閉会		
主な意見	<u>(1) 第4期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画(素案)について</u> ①第3章 基本方針の展開 基本方針3 多様な主体による持続可能な体制づくりについて ○ 「中心的人材の発掘・育成」という記載があるが、「中心的人材」の人物像をより明確にした方がよいのではないかと考える。成功している地域にはコーディネーター的な役割を担う人がいて、農業、旅行業、観光客の三つの視点を併せ持っている。このような人材を中心的人材として発掘・育成していくべきだと思う。 ②第3章 基本方針の展開 重点プロジェクト「鹿児島ならではの感動体験づくりの推進について ○ ツアー造成を進める中で最も課題となるのは、「誰が販売を担うのか」という点である。農家等が体験の提供に加え、集客や受入れまでを担うのは難しい。そのため、旅行会社やコーディネーター、行政などを含めた販売・運営の仕組みづくりが重要となる。 ただし、行政が主体となって継続的に運営していくことには限界があるため、現実的には旅行会社との連携が有効だと思うが、一方で、旅行会社はできるだけ大規模な団体を取り扱いたいのに対し、グリーン・ツーリズムは少人数での受入れが中心である。 このギャップを踏まえ、少人数でも高付加価値で利益が出る仕組みづくりが重要だと考える。 ○ 体験メニューというのは必ずしも作業を体験することだけではない。沖永良部では伝統的な黒糖づくりの製法を実際に見るという体験ツアーを行っており、参加者は非常に感動し、満足度も高い。「見学すること」自体が大きな価値になる場合もある。 (次ページへ続く)		

- 私たちが当たり前だと思っていることに、インバウンドの方々是非常に感動される。重点プロジェクトにも「成熟した文化」という考え方が入っていると思うが、地域の日常そのものが価値になる時代である。

地域の方にとっては当たり前のことなので、その価値に気付きにくい。だからこそ、地域資源の掘り起こしや人材育成が重要になる。

- インバウンドを連れてくる通訳案内士は自分で情報を検索しており、体験をする場合、「誰に聞けばいいのか」「どんな体験ができるのか」という情報を探している。

ホームページや SNS によるイベント告知だけでなく、体験の様子や担い手の人柄、参加者の反応が伝わるショート動画などを活用することで、体験の価値をより分かりやすく発信できる。

また、動画等を活用して体験内容を具体的に見える化することで、旅行会社やエージェントが商品造成を検討しやすくなり、誘客や販路拡大につながるのではないかと考える。

- 近年では、観光業とは直接関係のなかった事業者や個人が新たに観光分野へ参入し、これまでになかった体験コンテンツを生み出している事例もある。そのため、既存のグリーン・ツーリズム関係者だけでなく、観光分野以外の方々からも提案を募ることで、新しい視点や発想を取り入れられるのではないかと考える。

- インバウンド強化の観点からは、鹿児島に在住する外国人や留学生、日本語学校等のコミュニティへの働きかけも有効ではないかと思う。実際に地域に住んでいる外国人の方々にグリーン・ツーリズムを体験していただき、その感想や意見を聞くことで、外国人目線でのニーズや価値を把握することができると思う。

それにより、コンテンツ造成やプロモーションに生かすこともできるし、SNS 等を通じて母国や知人へ情報発信してもらうことも期待できるのではないかと考える。

- クルーズ客の受入れを考えると、地域全体の協力体制も必要。例えば 40 人規模の団体を受け入れるとなると、駐車場、トイレ、安全管理など、多くの課題がある。登録団体だけでは対応できない場合もあるので、地域全体としてどう考えるかという視点も必要と考える。

- 鹿児島ならではの体験とは何かを考えたとき、私自身、海外を訪れた際に、自分の英語と現地の方の英語がうまく通じず、お互いに意思をすり合わせながらコミュニケーションを図った時に、旅の醍醐味を感じた。同じように、鹿児島弁も単なる方言ではなく、地域の人々との交流を通じて楽しむことのできる、鹿児島ならではの体験になり得るのではないかと思う。